薬学領域から発信する NAFLD/NASH 研究の最前線
—基礎研究から薬物治療及び薬剤師活動へのフィードバック—

徳山 尚吾,^{*,a} 金 啓二^b

The Front Line of the NAFLD/NASH Study Reported from the Pharmaceutical Field
—Feedback from Basic Research to Medical Treatment and Pharmacist Activity—

Shogo Tokuyama^{*,a} and Ke Ih Kim^b

^aDepartment of Clinical Pharmacy, School of Pharmaceutical Sciences, Kobe Gakuin University; 1-1-3 Minatojima, Chuo-ku, Kobe 650-8586, Japan; and ^bDepartment of Hospital Pharmacy, Kobe Asahi Hospital; 3-5-25 Booji-cho, Nagata-ku, Kobe 653-0801, Japan.

本誌上シンポジウムに掲載された総説は、2018年3月26日に金沢にて開催された日本薬学会第138年会シンポジウムS12「薬学領域から発信するNAFLD/NASH研究の最前線—基礎研究から薬物治療及び薬剤師活動へのフィードバック—」における発表内容を中心にまとめたものである。すなわち、「年会で本シンポジウムに参加したが、活字でもう一度読みたい」、「年会では他の発表を聴講したため、このシンポジウムに参加できなかったが、内容について詳しく知りたい」との要望に応えるべく企画されたものである。特に今回は2015年に長崎で開催され本会第135年会シンポジウムS32で議論された内容のその後の展開を共有する目的も有している。

非アルコール性脂肪性肝疾患 (nonalcoholic fatty liver disease; NAFLD) は、肝細胞に脂肪の沈着のみを認める単純脂肪肝 (nonalcoholic fatty liver; NAFL) と脂肪沈着に加えて肝細胞の炎症や線維化を伴う非アルコール性脂肪肝炎 (nonalcoholic steatohepatitis; NASH) に分類される。NASHはNAFLが進行した病態と理解され、肝硬変、肝細胞がんに行進する可能性があり、治療のターゲットとすべき病態であるとのコンセンサスが得られている。特に、NAFLDは、近年増加している内臓肥満

を伴うメタボリックシンドローム患者において、高頻度に合併することからも内外から注目を浴びている。現在、わが国におけるNAFLDの罹患者数は1000万人以上と推定されており、将来的に、最も頻度の高い慢性肝疾患となることが試算されている。したがって、早期診断・治療のためのバイオマーカーなどの探索及び治療法の確立が急がれている。

本シンポジウムでは、NAFLDの診断、治療法、発症機序やバイオマーカー探索に関する基礎及び臨床から得られた最新の知見を紹介した。今回、これらの領域に焦点を当てた基礎・臨床研究に従事する国内第一線の医師、薬剤師及び研究者を招聘し、最新の成果をご披露頂いた。これらについて討論することで、本領域における更なる研究の進展と今後の診断法の確立、創薬の開発へと結びつけるエビデンスを提供することを目的としたものであるが、期待に違わず、活発な意見交換がなされ、所期の目的は達成されたとの思いがある。是非、本誌上シンポジウムでも、その際の息吹を少しでも感じて頂きたい。

末筆ではありますが、本シンポジウムの開催並びに本誌上シンポジウム執筆にあたり、貴重な機会を与えて頂きました日本薬学会第138年会組織委員長の向 智里 金沢大学教授、組織委員会委員並びに日本薬学会スタッフ関係諸氏に対しまして厚く御礼申し上げます。また、今回の発表及び執筆にあたり、多大なるご理解とご協力を賜りましたシンポジウムの先生方にもこの場をお借り致しまして、感謝の気持ちをお伝えしたいと存じます。

^a神戸学院大学薬学部臨床薬学研究室 (〒650-8586 神戸市中央区港島一丁目1-3)、^b神戸朝日病院薬剤部 (〒653-0801 神戸市長田区房王寺町3丁目5-25)

*e-mail: stoku@pharm.kobegakuin.ac.jp

日本薬学会第138年会シンポジウムS12序文